愛シティにしお様

2021年5月10日
前田　修

Ｑ３
民意をくみとり市政に反映すること

Ｑ４
市民一人ひとりと結びついているので、一部有力者や企業・団体にも気兼ねせずハッキリもの言えること。

Ｑ５
う～ん、弱みと思う必要もないと思うが、議会の中では少数派なので意見が通らないことがある。

Ｑ６
西尾市は自然豊かで観光や産業においても、もっともっと発展することができ、住みよい町となる可能性ある自治体だと思っています。しかし、昨年の市政世論調査では、４人に１人は「どちらかと言えば住みにくい」と答えています。地域的な格差、企業間格差、所得による格差などから、住みにくいと感じている人が少なくありません。今の西尾市は、調査の結果からも明らかなように、公共交通の不足、医療・福祉環境の不足、公園が少ないなど、市民の期待に応えらえていません。
本来の西尾市の財政力なら、市民の要望にもっと応えられるはず。西尾市は、まだまだ市民の意向が反映されていない自治体だと言わざるを得ません。

Ｑ７
一人ひとりが大切にされる、市民の意向が反映される西尾市になることを願っています。
市政世論調査では、３人に１人が「市民の意向が反映されていない」「あまり反映されていない」と答えています。そのために、市民の意見を聞く仕組み（投書箱や電子メール）、市長や議会が地域に出向き市民の意見を聞く制度を確立し、実行する事が求められていると思います。
市民の意見を聞き、市政がそれを実行する仕組みが確立することで、市民が願う公共交通も福祉・医療の充実も実行されていくことになるし、そのチェック機関としての議会の役割を果たすことになると思います。

Ｑ８
近い未来に向け何をすべきかという点では、西尾市は課題山積であり、PFI、産業廃棄物、地震・津波対策など心配なことばかりです。
市の抱えている課題や問題点・施策を分かりやすく市民に周知し、市民と共に考えることが必要です。
泥沼状態となっているPFI事業でも、市民に理解を得つつ「見直し」を進めていれば、市民が納得いかないような税金支出はありえなかったはずです。産業廃棄物問題でも、仮に進出を許してしまえば遠い将来にわたって環境問題は取り返しがつきません。「市民が政治の主人公」という地方自治の大原則を守り発展させることが、西尾の未来をつくることだと考えます。

Ｑ９

現在、日本共産党の西尾市議団は２名です。議会内外の活動を通して、不正やムダ使いのない政治、平和で暮らしやすい社会にしたいとの思いで、活動しています。
市政だけでなく国政においても、特権的な強者による不正、忖度・隠ぺい・改ざん・ねつ造を繰り返し、疑惑逃れに終始している政治は許せません。公正で平等、汗して働く者が報われる社会にすること、弱い立場の人に心を寄せる政治を実現したいと思っています。3割自治とも言われ、西尾市民の暮らしも国政に委ねられています。コロナ対策、PFI問題、保育充実・子育て支援、また、自然との共生、ジェンダー平等など今日的な課題も重要です。議員として取り組みたい課題が山積しています。

Ｑ１０

私は、20歳の時、日本共産党に入りました。ロッキード事件に怒りを持った、正義感旺盛な青年時代でした。27歳で一色町の議員として活動することとなり、今回の選挙で38年になります。この38年間、欠かさなかったことは毎定例議会で一度も休まず一般質問に取り組み、市民要望をとりあげ、また、市民の政治に対する不満や意見を代弁してきたことです。そして、定例議会後には、欠かさず市政報告をみなさんの家庭にポステイングさせていただいてきました。なにより「市民が第一」をモットーに、市民の立場で、ダメなことはダメとキッパリものを言うことができました。ブレることなくスジを通し、これからもがんばる決意です。